

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高校生としてふさわしい「知・徳・体」のバランスの取れた人格形成に努めながら、より一層の学力向上に取り組み、生徒一人ひとりの進路希望の実現につながる教育をめざす。

1. 生徒が安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現
2. 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上
3. チーム「いちりつ」として課題解決にあたる教員集団の確立

2 中期的目標

令和3年に80周年を迎えた本校のこれまでの伝統を継承し、令和10年度からの学科再編を踏まえ、府立高校としての発展と、「知・徳・体」のバランスの取れた人格形成に努めながら、より一層の学力向上に取り組み、生徒一人ひとりの進路希望の実現につながる教育をめざす。

1 生徒が安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現

(1) 互いの人権を尊重し、いじめを許さない組織的取り組み

ア 違いを認め合う心を養い、いじめを絶対に許さない学校の雰囲気づくりに組織的に取り組む。また、SNSによる嫌がらせ行為などに対して毅然と指導する。

(2) 自律的に行動する生徒の育成と規範意識の向上

ア 防災・減災教育を推進し、非常変災の際に自らが取るべき態度と行動を身につける。

イ 安全教育を推進し、交通マナー・事故防止・自己防衛などの意識向上に取り組む。

ウ 登校時間や学校生活におけるさまざまな活動時間の厳守に取り組む。

※学校教育自己診断において①「本校の学校生活で基本的な生活習慣を身につけられる」R10に（生徒）の指数85%以上、②「遅刻指導など、基本的な生活習慣が身に付けられるような指導がされている」（保護者）の指数90%以上を維持する。（R5 ①89.7% ②93.7% R6 ①90.1% ②93.2% R7 ①94.2% ②94.7%）

(3) 生徒会・各種委員会・部活動等のさらなる発展

ア 学校行事や各種委員会活動等に主体的に参加し、地域との連携を通じて伝統や文化を尊重する態度、創造性を涵養する。

※学校教育自己診断「学校は生徒会を中心に、部活動や学校行事を活性化するように工夫している」（生徒）の指数をR10に85%以上を維持する。（R5 80.4%、R6 85.9% R7 91.9%）

2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

(1) 「わかる授業、充実した授業」に向けた、学校全体の教育力向上

ア 教職員一人ひとりが授業実践についての研究・改善を進めるとともに授業公開を行い、その目的達成のきっかけとする。

イ 自学自習の推進とともに課題を発見し探究する意欲をもつ主体的な学習者を育てる。

※ 授業アンケート「先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。」の回答をR10には3.4以上とする。（R5 3.29 R6 3.30 R7 3.35）

(2) 進路意識の高揚と進路希望の実現

ア 補習授業・個別指導・自習環境の整備など、進路希望実現への支援の充実をはかる。

イ 生徒が自分にふさわしい進路目標を設定できるよう、キャリア教育を推進し、様々な援助・支援を行う。

ウ 高大連携を進めるとともに、大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解し、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンス及び個別面談を行う。

※ 関関同立及び国公立大学の延べ合格者数が100人以上となるよう継続して指導を行う。（R5 95人 R6 122人 R7 135人）

(3) 国際交流活動の推進

ア オーストラリアの姉妹校バイビュー・カレッジとの国際交流をはじめとする各種事業の充実をはかり、国際理解を深める。

※ 7月に実施される3年生進研記述模試（英語 [リスニングを含む]）において、G T Z（学習到達ゾーン）がB1以上に到達する生徒の割合が16.5%以上となることをめざす。（R7 16.5%）

(4) 健康への関心と自己管理能力の向上による生きる力の育成

ア 学校行事・部活動充実のための環境づくりを図る。

イ 支援を必要とする生徒について、保護者・担任との連携を図りながら個別の支援を考えていく。

※ 学校教育自己診断「学校の先生は生徒の心身の様々な悩みを聞き、適切に答えてくれる」（生徒）の肯定的回答をR10には80%以上を維持する。（R5 78.0% R6 83.8% R7 86.7%）

(5) 専門科の取り組み

【英語科の教育活動の充実】

ア 英語の運用能力の向上により、コミュニケーション能力を育成するとともに、多角的に異文化理解・国際問題・時事問題などを扱うことで幅広い知識・考える力・柔軟な国際感覚・多面的な視野を身につけさせる。

※ R10に学校教育自己診断「英語科の教育活動を通して、英語及び国際理解教育に関する知識・技術が身についた」（英語科生徒）の指数90%以上とする。（R7 90.4%）

【理数科の教育活動の充実】

ア 理数科目に関する知識を身に付け、技術として実験・発表に扱うことのできる生徒を育成する。

※ R10に学校教育自己診断「理数科の教育活動を通して、科学的な知識・技術が身についた」（理数科生徒）の指数90%以上とする。（R5 85.5% R6 92.3% R7 94.3%）

(6) リーディングGIGAハイスクール指定校としての取り組み

ア 各種の授業や探Q（総合的な探究の時間）において生徒1人1台端末の積極的な利活用をめざす。

イ 出席停止生徒、不登校生徒、臨時休業の際にオンラインを活用した学びの保障を100%実施する。

ウ 学校行事や部活動での生徒1人1台端末の有効的な利活用をめざす。

※学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」（生徒）の肯定的回答をR10には指数90%以上とする。（R5 81.6% R6 84.5% R7 91.1%）

3 チーム「いちりつ」として課題解決にあたる教員集団の確立

(1) 学校の教育課題に対し全員で取り組む環境づくり

ア 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立する。

(2) 労働安全衛生管理体制の充実：大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。

ア 校務運営について業務の見直しやICTを用いて効率化を図る。

イ 部活動方針の遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築する。

ウ 長期休業期間中等に、休暇を取得しやすい環境を整備する。

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価(進捗状況)
1 生徒が安心して成長できる安全な社会(学校・家庭・地域)の実現	(1) 互いの人権を尊重し、いじめを許さない組織的取り組み	<p>ア 様々な人権問題について正しい知識を身につけ、各種行事・LHR等を通じてお互いの人権を尊重し、協力する態度・意識を育てるとともに講演会や研修等の取組を進める。</p> <p>イ いじめ未然防止の推進のため、各学年に対しスマホ・SNSに関する講話および人権講話を開催する。また、掲示物で常日頃から注意喚起をおこなう。</p>	<p>ア 学校教育自己診断「命の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会がある。」(生徒)の肯定的指数を80%以上とする。[90.0%]</p> <p>イ スマホ・SNSに関する講話および人権講話を開催する。各学年1回開催する。[3回]</p>	
	(2) 自律的に行動する生徒の育成と規範意識の向上	<p>ア 防災・減災教育を推進し、非常変災時には自らが支援者として主体的に行動し、社会に貢献する態度を育成する。</p> <p>イ 安全教育を推進し、交通マナー・事故防止・歩行者という立場も含めた自己防衛および安全配慮などの意識向上に努める。</p> <p>ウ けじめのある有意義な学校生活を送れるよう、様々な活動時間を厳守する意識を高めるため、学年・分掌が連携、生徒状況を把握し、個に応じた適切な指導を行う。また遅刻傾向の分析や対策を全職員で共有し、遅刻防止の啓発活動をおこなう。</p> <p>エ あいさつ・服装・頭髪・スマートフォン等の指導により、校則の遵守と規範意識の向上に取り組む。また、講話等を通じて、校則や規律を守ることの大切さを理解させる。</p>	<p>ア 総合避難訓練を年に2回以上実施する。[2回]</p> <p>イ 交通安全講話、自転車通学者向けの講話等を年2回実施する。[2回]</p> <p>ウ・遅刻者(対象となる不注意等によるもの)を1日平均5人以下とする。[2.99人]</p> <p>・学期ごとに遅刻防止週間を設定し、指導委員の主体性を生かした遅刻防止の啓発活動を実施。[3回]</p> <p>エ・学校教育自己診断「本校の学校生活で基本的な生活習慣を身につけられる」(生徒)の指数85%以上を維持する。[94.2%]</p> <p>・学校教育自己診断「遅刻指導など、基本的な生活習慣が身に付けられるような指導がされている」(保護者)の指数90%以上を維持する。[94.7%]</p>	
	(3) 生徒会・各種委員会・部活動等のさらなる発展	<p>ア 生徒会活動、学校行事や各種委員会活動等を通じて、主体的に考え行動を起こすことができる生徒集団を育成する。</p> <p>イ 部活動等の集団活動を通じて、規範意識や他者と協力することの大切さを理解させるとともに、他者との違いを理解・尊重できる生徒を育てる。</p> <p>ウ 地域との連携の機会を生かし、社会参画への意識を高める。</p>	<p>ア 学校教育自己診断「学校は生徒会を中心に、部活動や学校行事を活性化するように工夫している」(生徒)の指数83%以上を維持する。[91.9%]</p> <p>イ 学校教育自己診断において「本校の部活動は活発だ。」の指数90%以上を維持する。[95.8%]</p> <p>ウ 小学校や幼稚園等との連携を年に6回以上行う。[10回]</p>	
2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上	(1) 「わかる授業、充実した授業」に向けた、学校全体の教育力向上	<p>ア 個々の生徒の進路希望実現のために必要な教育課程の編成、改善に努める。生徒が選択科目を適切に選択できるよう支援するとともに、個々の学習発達段階に応じた授業・補習の実施をはかる。</p> <p>イ 主体的・対話的で深い学びを促すとともに、探究する意欲や理解力を深めるよう授業力の向上をめざし、生徒の学びに対する興味関心を高め、生徒の主体的に学ぶ力を育成する。</p>	<p>ア 補習講座時間数 250 時間以上を確保する。[夏季補習、定期考査に向けての補習、論文指導、英検対策指導等 計 260 時間]</p> <p>イ・学校教育自己診断において「生徒が意欲的に取り組むよう、授業の工夫をしている先生が多い。」(生徒)の肯定的指数について83%以上を維持する。[85.0%]</p> <p>・授業アンケート①「先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている。先生が与える教材や課題の量は自分にとって適切である。」と②「授業を受けて知識や技能が身に付いたと感じている。」の指数の維持。[①3.49 ②3.39]</p>	
	(2) 進路意識の高揚と進路希望の実現	<p>ア 自習室を開設することにより生徒の学習機会の支援を行う。</p> <p>イ 生徒自らが自己の興味・関心や進学希望に応じた学習課題を選択できるよう、適切なプログラムを設定し、生徒各自の主体的な学習活動をうながす。</p> <p>ウ 高大連携を推進するとともに、大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解し、生徒の希望や適性</p>	<p>ア 自習室の年間350時間以上の開設を維持する。[夏季休業中+早朝で計370時間]</p> <p>イ 学校教育自己診断において「複数設定での授業や選択授業の開講などの工夫がみられる」の指数85%以上を維持する。[89.9%]</p> <p>ウ 学校教育自己診断において「学校には、生徒の必要としている進路情報があり、積極的に活用でき</p>	

府立いちりつ高等学校

		等に応じた適切なガイダンス及び個別面談を行う。	る様になっている」の指数 90%以上を維持する。 [93.2%]	
	(3) 国際交流活動の推進	ア 国際社会で通用する英語力を育成する。 イ オーストラリアの姉妹校バイビュー・カレッジとの交流を継続的に行うなど、多様な国際交流の機会を積極的に取り入れる。	ア 7月に実施される3年生進研記述模試(英語[リスニングを含む])において、GTZ(学習到達ゾーン)がB1以上に到達する生徒の割合を16.5%以上とする。[新規] イ 姉妹校との国際交流を年1回以上実施する。[1回]	
	(4) 健康への関心と自己管理能力の向上による生きる力の育成	ア 自らの健康に関心を持ち、自己管理能力を高め、生きる力を身につける。健康的な生活習慣を身につけるとともに、生涯を通じて自らの健康を心身ともに適切に管理し、改善していく資質や能力を育成する。 イ 精神面の不安や悩みを抱える生徒を把握し、保護者・学年・スクールカウンセラーとの連携を取りながら適切に対応する。 ウ 支援を必要とする生徒の実態を把握し、保護者・担任との連携を図りながら個別の支援を考えていく。	ア 学校教育自己診断において「学校の先生は、生徒の心身の様々な悩みを聞き、適切に答えてくれる」の指数80%以上を維持する。[86.7%] イ 学校教育自己診断において「生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われている。」(保護者)の指数85%以上を維持する。[89.2%] ウ 支援委員会を年8回以上開催する。[8回]	
	(5) 専門科の取り組み	【理数科】 ア 自然現象を科学的な視点でとらえ、科学的な知識・実験技術を身に付けるけるために、1年生の理数実習(野外観察実習も含む)にて実験・体験学習を行う。 イ 理数実習により、情報をまとめ、表現力を鍛えるために、各実習後のまとめの発表を2回以上行う。 ウ 課題研究(理数探究)により、得た知識からの応用力を養い、情報をまとめ表現力を鍛えるために研究成果の校内での発表を行う。 エ 科学的な知識の充実をはかるため、大学との連携による講演会および施設見学をそれぞれ実施する。 【英語科】 ア 多角的に異文化理解・国際問題・時事問題などを扱うことで英語力を育成するとともに、幅広い知識・考える力・柔軟な国際感覚・多面的な視野を身につけさせる。 イ 高大連携等により、外部講師を活用し、英語の運用能力の向上により、コミュニケーション能力を育成する。	【理数科】 ア・イ・ウ 学校教育自己診断「理数科の教育活動を通して、科学的な知識・技術が身についた」(理数科生徒)の指数85%以上を維持する。[94.3%] エ 1年生と2年生において、講演会や施設見学を実施する。[3回] 【英語科】 ア 学校教育自己診断「英語科の教育活動を通して、英語及び国際理解教育に関する知識・技術が身についた」の指数85%以上とする。[90.4%] イ 外部講師を招聘し、英語科の生徒対象の講演会を2回以上実施する。[2回]	
	(6) リーディングGIGAハイスクール指定校としての取り組み	ア 英語AIソフト(BASE in OSAKA)の活用を含め、各種の授業や「探Q(総合的な探究の時間)」において生徒1人1台端末の積極的な利活用をめざす。 イ 出席停止生徒や臨時休業の際にオンラインを活用した学びの保障を100%実施する。 ウ 学校行事や部活動での1人1台端末の有効的な利活用をめざす。	ア・イ・ウ 学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」の肯定的回答の指数87%以上を維持する。[91.1%]	
3 チーム「いちりつ」として課題解決にあたる教員集団の確立	(1) 学校の教育課題に対し全員で取り組む環境づくり	ア 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的に改善・改革に取り組む教職員集団を確立する。	ア・学校教育自己診断「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」(教職員)の指数85%以上にする。[87.7%] ・令和10年度からの学科改編に向けての改革(教育課程・校内分掌等)を進めている。	
	(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化	ア ICTや生成AIを活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。 イ 部活動の年間・月間活動計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、方針に則った適切な活動とする。 ウ 長期休業期間中等に年休・特休取得を促進する。	ア・イ・ウ 時間外在校等時間が年間720時間を超える教育職員をゼロにする。[12人]	